

学校番号	108	学校名	沼津特別支援学校愛鷹分校	校長名	青木 暁乃
------	-----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 安全	<b>【防災・防犯・安全】</b> 自ら命を守る意識と行動ができる生徒の育成	・「災害や犯罪から自ら命を守ることができる生徒を育てている」と答える教員80%	災害や犯罪から自ら命を守ることができる生徒を育てている 100%	B	沼津城北高と防災訓練や安全講話を行い、災害時の動きを確認したり安全に対する意識を高めたりすることができた。防災に関する授業を年間通して計画的に行うことができた。
		・「緊急時における対応力が向上している」と答える教員80%	緊急時における対応力が向上している 72.2%		
		・「自分を守る授業を行うことができている」と答える教員80%	自分を守る授業を行うことができている 94.5%		
		・「学習した内容を理解させることができている」と答える教員80%	学習した内容を理解させることができている 94.4%		
	<b>【道徳教育・人権教育】</b> 道徳教育の充実及び人権を意識した指導	・「道徳の授業を年2回行っている」と答える教員80%	道徳の授業を年2回行っている 94.4%	A	学年で道徳の授業を検討することで、道徳の押さえについて意識できるようになってきている。職員研修で不祥事根絶を取り入れ、その都度研修を行えたことは意識を高めるうえでよかった。  道徳を行う教員が一部になってしまったので全員ができるようにしたい。道徳の授業づくりを学ぶ機会をもちたい。
		・「人権意識が向上している」と答える教職員85%	人権意識が向上している 100%		
		・「生徒に寄添い、話を聞くことができている」と答える教員80%	生徒に寄添い、話を聞くことができている 100%		
	<b>【生徒指導】</b> 学校や社会のルールを守って、安全に安心して生活することができる生徒の育成	・「校内や社会のルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てている」と答	校内や社会のルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てている 100%	A	問題があったときには、その都度校則などを確認することで納得して学校生活を送ることができている。  教員向けの研修を考えていき

様式第3号

		える教員 80%			い。
	<b>【授業改善】</b> 「働く人を育てる」ことに着目し、生徒が、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりの実践	・「生徒が主体的・対話的で深い学びをする授業の話し合いができている」と答える教員 80%	「生徒が主体的・対話的で深い学びをする授業の話し合いができている 94.4%	A	職業の授業を研修窓口にすることで、生徒の主体的な姿を考えることができるようになってきた。  授業について話を深める時間がもてない。
	<b>【専門性】</b> キャリア教育の視点に基づいた、知的障害の特性に応じた指導・支援の向上と継承	・「主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てている」と答える教員 90%	主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てている 94.4%	A	校内での学習だけでなく、次週などでも挨拶や質問など積極的に取り組む姿が多く見られた。 TT間での話し合いで、生徒にわかりやすい授業づくりを進めることができた。  生徒の希望と実態を踏まえた実習先の決め方を、共通理解したい。
		・「障害の特性に応じた指導・支援ができている」と答える教員 80%	障害の特性に応じた指導・支援ができている 94.4%		
	<b>【ICT】</b> ICTを活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりの実践	・「ICT 機器を授業で使っている」と答える教員 80%	ICT機器を授業で使っている 83.3%	A	調べ学習を中心に活用が深まっている。  教員の研修が十分でない。
	<b>【図書】</b> 読書指導の充実と自ら読書に親しむ活動の推進	・「生徒の図書に親しむ機会が増えている」と答える教員 80%	生徒の図書に親しむ機会が増えている 94.4%	A	研究指定を受けたことで、図書コーナーの充実、読書週間の実施など生徒が本に親しむ環境づくりはできてきている。  教室にも書棚をおいたが、冊数は十分でない。保管場所、購入計画を考えていく必要がある。
		・「図書を利用した活動を行うことができている」と答える教員 80%	図書を利用した活動を行うことができている 100%		
ウ	<b>【共生・共育】</b> 沼津城北高等学校との交流活動の充実	・「生徒が主体的に交流できる活動の機会を持つことができている」と答える教員 80%	生徒が主体的に交流できる活動の機会を持つことができている 83.3%	A	松濤祭を一緒にできたことは、今年度大きな成果となった。 サッカー部はアスルクラロ沼津の選手を迎えて合同練習を行えた。 城北高校の理科教員が、出前授業として3学期に1時間各学年で授業を行う。  交流活動はまだ充実されているとは言えない。
		・「沼津城北高等学校と一緒にを行う行事や部活動等を計画している」と答える教員 80%	沼津城北高等学校と一緒にを行う行事や部活動等を計画している 83.3%		

様式第3号

	<p>【センター的機能・理解啓発】 地域や学区の中学校、関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発の推進</p>	<p>・「支援や指導について、地域の学校や関係機関と連携が取れている」と答える教員 80%</p>	<p>支援や指導について、地域の学校や関係機関と連携が取れている 83.3%</p>	A	<p>オープンスクールを実施して、中学生の理解を深めることができた。 幼稚園交流は短時間であるが実施することができた。</p> <p>各学年の交流で高齢者施設や同年齢交流を行うことが難しかった。</p> <p>生徒がホームページを作る機会も増え、学校の様子を発信できている。</p>
		<p>・「近隣施設等との交流活動を計画している」と答える教員 80%</p>	<p>近隣施設等との交流活動を計画している 100%</p>		
		<p>・ホームページの更新 (月2回以上)</p>	<p>・ホームページの更新 (月2回以上) 100%</p>		
エ	<p>【マネジメント力の育成】 計画的、効率的な業務遂行力の向上</p>	<p>・「会議の効率化を意識できている」と答える教員 80%</p>	<p>会議の効率化を意識できている 100%</p>	A	<p>会議の持ち方を工夫したことで、効率的になった。</p> <p>サーバーが、担当者以外にも見やすくする必要がある。 情報共有の方法を考えていく必要がある・</p>
		<p>・「従来の業務を見直し、精選、合理化を図れている」と答える教員 80%</p>	<p>従来の業務を見直し、精選、合理化を図れている 88.9%</p>		
		<p>・「支援方法の知識が深まり、指導力が向上している」と答える教員 80%</p>	<p>支援方法の知識が深まり、指導力が向上している 83.3%</p>		
	<p>【本校との連携】 学校運営に関わる事務手続き、予算の計画的な執行等、本校事務との連携の強化</p>	<p>・「本校事務職員と連携して、事務手続きや予算執行ができています」と答える職員 85%</p>	<p>本校事務職員と連携して、事務手続きや予算執行ができています 94.4%</p>	A	<p>予算執行については、ほぼできたと思われる。</p> <p>連携するためにどのようなことを押さえていくかが十分でなかった。</p>